



みどりの風吹くまち

練馬区

面積 48.08km²
世帯数 392,417世帯
人口 743,428人
(うち外国人) 23,922人
予算 3,231億円
職員数 4,380人



練馬区公式アニメキャラクター
「ねり丸」



石神井の森を背景に、幻想的な
雰囲気の中で開催している
「みどりの風 練馬新能」



野外の開放的な雰囲気の中で音楽
に親しむ「ねりまの森の音楽祭」



「まちと一体となった」「本物の
アートに出会える」「図書館と融合
する」という新しい発想により、年
齢や障害の有無に関わらず、誰も
が文化芸術を楽しむよう再整備を
進めている「美術館・貫井図書館」
(写真は基本設計時のイメージ。令和10年度開
館予定)

歴史・見所・名所

「練馬」という地名の由来については、関東ローム層の赤土をねったところをねり場といったことなど諸説がありますが、いずれも定説にはなっていません。

江戸時代、練馬の地域は都心部へ野菜を供給する一大近郊農村でした。関東大震災以降の急激な人口増加によって市街地化が著しくなったため、区独立の機運が高まり、激しい運動が展開されました。東京の区制の変遷を経る中で、紆余曲折ののち、そうした運動の成果が実って昭和22(1947)年8月1日に板橋区から分離・独立し、特別区の中で一番新しい23番目の区として誕生しました。

練馬区は、23区の中では、今なお武蔵野の面影を残すみどり豊かな自然が多く見られ、国の天然記念物に指定されている沼沢植物群落のある石神井公園や広大な敷地を有する光が丘公園などの都立公園、不思議な動物たちの彫刻群がお出迎えする美術の森緑地、バラの香りを楽しめる四季の香ローズガーデン、練馬発祥の農業体験農園、気軽に野菜の収穫体験ができるねりまベジかるファーム、23区唯一の大規模なカタクリ群生地である清水山の森など、まちに潤いを与えるみどりのネットワークが形成され、市民生活と融合した農業が営まれている住環境と言えます。

概要

練馬区は、23区の北西部に位置し、東西約10km、南北約4～7km、面積48.08km²で23区の中では5番目の面積を有しており、ほぼ長方形をしたほとんど高低差のないなだらかな台地状の地形をしています。人口は、約74万3千人で、23区中2番目の人口規模になっています。

大都市東京の都心近くに立地しながら、豊かなみどりが残る、自然と都市が融合したまちです。雑木林の湧水池などの水辺空間や武蔵野の面影が残る貴重な自然など、都心部では味わえない数多くの魅力があります。区では、こうした練馬区ならではの魅力あるみどりを未来に伝えていくために、貴重なみどりを地域で守る区民協働の取り組みを進めています。

一方、区内には西武池袋線、西武新宿線、東武東上線、東京メトロ有楽町線、都営大江戸線などの運行に加えて、東京メトロ副都心線の乗り入れ、更に、西武池袋線が東京メトロ副都心線を経由して東急東横線、横浜高速みなとみらい線との相互直通運転を開始するなど、近年の交通網の整備により、都心などへのアクセスも飛躍的に向上しています。

このように練馬区は、みどりの豊かさと都市生活の利便性が両立した多様性のある住宅都市として発展を続けています。

主要課題・将来展望

平成30(2018)年6月に、区政を更に前に進めるため、「暮らし」「都市」「区民参加と協働」の三つの分野からなる「グランドデザイン構想」を策定し、目指す将来像を区民の皆様と共有しました。

グランドデザイン構想の実現に向けて、これまでの政策を着実に継続・発展させ、その上に立ち、みどり、文化、スポーツ、都市インフラなど区民生活をより豊かにする施策に更に力を入れていく必要があります。構想実現に向けた政策展開を明らかにするため、区の新たな総合計画(地方版総合戦略)として、「第3次みどりの風吹くまちビジョン」を令和6(2024)年3月に策定しました。

「第3次みどりの風吹くまちビジョン」に示された6つの施策の柱は以下のとおりです。

(1) 子どもたちの笑顔輝くまち

多様化する子育てサービスのニーズに応える施策を展開することで、子育てのかたちを選択できる社会を実現します。

(2) 高齢者が住みなれた地域で暮らせるまち

高齢者一人ひとりが希望するサービスを選択できるよう、施設サービスと在宅サービスをバランスよく整備してきました。引き続き、医療と介護サービスの基盤整備に取り組み、住み慣れた地域での暮らしを支えます。

(3) 安心を支える福祉と医療のまち

誰もが安心して暮らせ、未来に希望をもって生活できるまちの実現をめざし、福祉・医療サービスを一層充実させます。

(4) 安全・快適、みどりあふれるまち

安全で快適な、みどりあふれるまちの実現をめざし、区民と手を携えながら積極的に取り組んでいきます。

(5) いきいきと心豊かに暮らせるまち

文化芸術・スポーツ振興、都市農業振興、中小企業支援、商店街振興など、区民が暮らしに潤いや幸せを感じる、魅力あふれるまちをめざして取組みを進めます。

(6) 区民とともに区政を進める

区内の至るところで広がっている区民の自発的な活動が、更に活発に行われるよう、協働の取組みを深化させていきます。

コロナ禍において、行政のデジタル化の遅れが顕在化しました。限られた財源、職員で多様化する区民ニーズに応えるために、デジタルやデータを活用し、サービスや業務を抜本的に変革するDXを推進します。

〇他自治体との連携について

練馬区は、長野県上田市と友好都市提携を結んでいます。昭和55(1980)年、区立少年自然の家を当時の武石村(現上田市)に開設したことを契機に交流が始まりました。平成25(2013)年には、災害時における相互応援に関する協定を結び、令和元(2019)年10月の台風第19号で被害を受けた上田市に職員を派遣するなど連携を進めています。令和4(2022)年10月には、区内に上田市のアンテナショップがオープンしました。今後も、上田城跡公園をはじめとした観光地や特産品など、上田市の魅力を練馬区民に紹介する取組みを通して、両区市のにぎわいと発展につながる交流を進めていきます。



都市農業に積極的に取り組み、全国24の自治体とともに都市農業振興を図るため開催した「全国都市農業フェスティバル」



住宅街の中に農地や昔ながらの屋敷林が点在する「高松一・二・三丁目農の風景育成地区」に開園した区立施設「高松みらいのはたけ」



バラの香りや色、ハーブなどを五感で楽しめる「四季の香ローズガーデン」



植物学者・牧野富太郎博士が大正15年から亡くなるまでの30余年を過ごした住居と庭園の跡地「牧野記念庭園」